

平成27年度 地球環境基金第三回若手プロジェクトリーダー研修を開催しました

若手プロジェクトリーダー研修に関する詳細はこちら

http://www.erca.go.jp/jfge/training/h27/levelup_leader.html



平成28年1月14日（木）、15日（金）に1期生14名、2期生9名のメンバーを対象にした第三回研修を国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）において開催しました。

1 期生向け研修

研修のねらい

- 実践を通じて「伝える力」を身につける。

研修 1 日目

1. 講義「広報意識とメディア対応」



株式会社エンパシージャパン 小久保 啓（こくぼ ひろし）氏により、講義を頂きました。
研修生は「広報意識とメディア対応」と題された講義の中で、「誰に、何を、いつ、どのように」という流れに沿い、PR活動の方法、ターゲット層の探り方などについて学びました。

2. ロールプレイ「記者向けブリーフィング」「個別取材対応」



記者役と発表者とに分かれ、実際の取材対応を想定したロールプレイを行いました。
発表者役の研修生は、環境NGOを表彰する架空のコンテストで大賞を受賞したことを想定し、記者（小久保先生）からの質問に対応しました。記者役の研修生は発表者にカメラを向けたり、圧力をかけるといった役割があり、実際の現場に近い雰囲気づくりを行いました。

3. ワーク&個別相談「報道資料作成のポイント」

小久保先生より、報道資料作成のポイントについて講義を頂きました。その後、①ニュースリリース、②団体概要、③SNS投稿文章の三種類のワークから、それぞれの課題に合ったものを選び、作業を行いました。

また、作業時間中には小久保先生による個別相談の時間も設け、研修生それぞれが抱える課題の解決に取り組みました。



4. ビデオ鑑賞

ロールプレイの様子を撮影したビデオ鑑賞を行いました。

鑑賞中、すべての研修生に対して小久保先生からコメントを頂き、記者向けブリーフィングや個別取材対応を行う際のポイントを全員で共有しました。

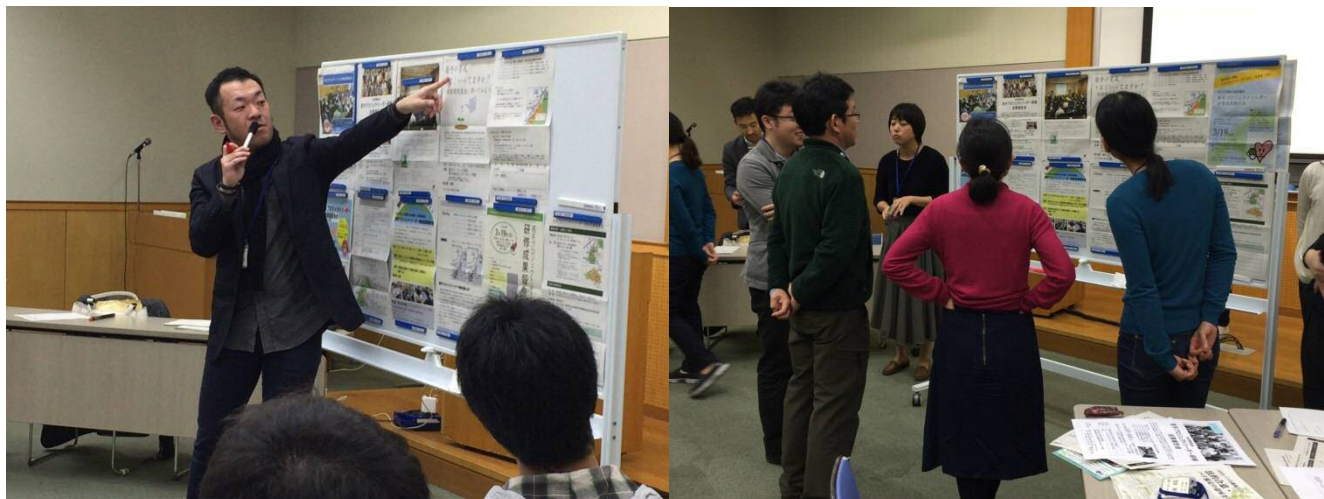
研修2日目

5. 講義「チラシの基礎レイアウトデザイン講座」



合同会社MACARON 谷 浩明（たに ひろあき）氏による講義を頂きました。
講義の中で、ブランドとは何か、デザイン・レイアウトとは何かということや、チラシ制作の方法について学びました。

6. 課題チラシの添削



研修生が作成した架空のイベントチラシの添削実習を行いました。
作成したチラシをすべて貼り出し、一枚一枚について谷先生による指導を頂き、チラシ制作の際に気をつけるべきポイントなどを研修生全員で共有しました。

7. ワークのつづき&個別相談

研修1日目に行った個別ワークの作業を進めました。また、1日目同様、小久保先生による個別面談の時間も設け、ワークを通して生じた疑問の解決に取り組みました。

研修の最後には、小久保先生より団体PR文の作成方法についても講義を頂きました。



開催概要

日時	平成28年1月14日（木） 10:00～1月15日（金） 15:30
場所	国立オリンピック記念青少年総合センター
内容	<p>【研修1日目】</p> <ul style="list-style-type: none">・ オリエンテーション・ 導入「広報意識とメディア対応」・ ロールプレイ「記者向けブリーフィング」「個別取材対応」・ 個別ワーク（ニュースリリース、団体概要、SNS投稿文章）・ 個別相談・ ビデオ鑑賞 <p>【研修2日目】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 講義「チラシの基礎レイアウトデザイン講座」・ 課題チラシの添削・ 個別ワーク、個別相談・ 全体まとめ
講師	株式会社 エンパシージャパン 小久保 啓 氏 合同会社 MACARON 谷 浩明 氏

講師紹介

小久保 啓氏／株式会社エンパシージャパン コミュニケーションデザイナー

社会課題解決のためのコミュニケーションデザインが生業。日本国際ボランティアセンター調査研究インターン、広告代理店、PR会社 株式会社オズマピーアール（環境コミュニケーション専門チーム立ち上げ）を経て、株式会社東北新社 プロモーション制作事業部にて広報・PRチームを立ち上げる。現在は、社会課題解決のためのコミュニケーションデザインカンパニーである株式会社エンパシージャパンに勤務。

オズマピーアールでは、消費財新製品発表、疾患啓発、フォトギャラリー、周年事業PRなどを担当。同社に2010年4月に環境コミュニケーション専門チーム「eco+（エコプリユス）」を立ち上げる。環境配慮型製品・サービスや環境省「省エネ照明モデル事業」広報、環境省「チャレンジ25キャンペーン」広報事務局、ソーシャルキャンペーン広報等を担当。

（株）東北新社では、同社保有のキャラクターPR、映画宣伝のほか、製菓PR、飲料PR、環境省気候変動キャンペーン「Fun to Share」事務局員等を担当。

谷 浩明氏／合同会社MACARON ファイナンシャルプランナー アートディレクター おもちゃコンサルタント

数社の広告制作会社を経て2011年、独立。主に広告制作などグラフィックデザイン業務を中心に活動。日本の社会問題を「あそび×デザイン」で解決したい！と「あそび」と「学び」をデザインでつなぐエデュケーションデザインプロジェクトHubFunを発足。第一弾として「金銭教育」をテーマにしたゲーム「マネーいろはカルタ」を発案・発売し、全国の子どもたちに向けて様々な啓発活動を行なっている。

平成 27 年度 地球環境基金第三回若手プロジェクトリーダー研修を開催しました



平成 28 年 1 月 14 日（木）、15 日（金）に 1 期生 14 名、2 期生 9 名のメンバーを対象にした第三回研修を国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）において開催しました。

2 期生向け研修

研修のねらい

- ・ファシリテーター的な場作りにおける 3 つのステップを学び、実践のための行動計画を作成する。
- ・「ファシリテーター的な場作りとは何か?」「どのような意味があるのか?」について、自分なりの考えを得る。

研修一日目

1. 導入と参加者の経験の共有

あいあいネット専務理事 壽賀一仁さんの進行で、まず「ファシリテート」という用語の意味について考え、この研修では「促進する（引き出す）」という意味合いで使っていくことを全員で確認しました。次に第二回研修の際に研修生が記入した「現在の課題」、「今後一か月間に重点的に取り組むこと」を振り返り、その後の進捗状況について一人ずつ報告をしました。



2. ファシリテーター的な場作りの第1ステップ「パートナーシップ構築」

明治大学大学院教授 長畑誠さんからパートナーシップ作りが必要な場面を想定したテーマが提示され、即興寸劇（ロールプレイ）を行いました。研修生は、シナリオがなく詳細な条件設定も自分たちで考えるロールプレイに初めのうちは戸惑っていましたが、ロールプレイを行っては振り返るということを3回繰り返すうちに、パートナーシップ作りに重要なこと（インフォーマルな関係作り、リラックスした場作りなど）が明らかになってきました。



3. ファシリテーター的な場作りの第2ステップ「聴くこと」

壽賀さんの進行で、相手に心地よく話してもらうための聴き方についてエクササイズを行いました。このエクササイズを通して、お互いについての理解や相手の話に興味を持っているアピールがあると、心地よく話してもらえることがわかりました。また、なぜ(Why)・どう(How)を使って質問する場合と、いつ(When)・どこ(Where)・だれ(Who)・何(What)を使って質問する場合を比較して、聞く側と話す側はそれぞれどんなことを感じたかを話し合いました。



研修二日目

4. ファシリテータティブな場作りの第3ステップ「対話」

長畑さんから、ファシリテータティブな場作りのための対話とはどういうものかについてお話があり、相手の目を通して物事を見つめなおすことだと確認したところで、小グループで対話のエクササイズを行いました。このエクササイズでは、否定をしない、掘り下げたいことがあったらいつ(When)・どこ(Where)・だれ(Who)・何(What)を使った質問をする、聞く人も自分が語りたくなったら語る、「この人のこの考えの背後にはどんな経験があるのだろう」と考えながら対話する、というルールのもと取り組みました。

5. 「ファシリテータティブな場作り」まとめ

実際にプロジェクト推進にあたって関係者の協力を得られず苦慮した経験を持つ研修生もいる中、壽賀さんからクイズを交えながら、どうすれば人は動くのかというお話がありました。壽賀さんが海外の現場で活動する際には自分から課題解決のための提案はせず、すべて現地の人々が決めており、彼らと信頼関係を築いて寄り添っている壽賀さんは友達だと認識されているというお話に、研修生は新たな気づきを得ていました。



6. アクションプラン作りと共有

最後に、2日間の研修での気づきを踏まえ、今後の活動で「ファシリテータティブな場作り」についてどう実践していくかを、アクションプランとして各自作成しました。



開催概要

日時	平成 28 年 1 月 14 日(木)10:00~10 月 15 日(金)15:30
場所	国立オリンピック記念青少年総合センター

<p style="text-align: center;">内容</p>	<p>【研修一日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オリエンテーション ● 導入と参加者の経験の共有 ● 「ファシリテータータイプな場作り」の第1ステップ 『パートナーシップ構築』 ● 「ファシリテータータイプな場作り」の第2ステップ 『聴くこと』 <p>【研修二日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「ファシリテータータイプな場作り」の第3ステップ 『対話』 ● 「ファシリテータータイプな場作り」まとめ ● アクションプラン作りと共有 ● 全体まとめ
<p style="text-align: center;">講師</p>	<p>明治大学専門職大学院ガバナンス研究科 教授 長畑誠氏 一般社団法人 あいあいネット 専務理事 壽賀一仁氏</p>

講師紹介

長畑 誠氏／明治大学専門職大学院ガバナンス研究科教授

1961年生まれ。東京大学法学部卒。上智大学大学院修士課程修了。在学中からNGO活動に関わり、卒業後（特非）シャプラニールの職員として活動。その後、国際協力NGOセンター調査研究員を経て、2004年に仲間とともにNPOを設立（（一社）あいあいネット）、同会専務理事。住民主体の地域づくりやコミュニティ・ファシリテーションをテーマに、日本国内の地域や、インドネシア、ベトナム等で活動。JICA（国際協力機構）の研修員受入事業のコースリーダーや技術協力プロジェクトの短期専門家も務めている。（特非）ソムニード理事、同アジアコミュニティセンター21理事。

『国境をこえた地域づくり』（共著）、『進化する国際協力NGO』（共著）、『バングラディッシュを知るための60章』（共著）、『マイクロファイナンス読本』（共著）、『NGO最前線』（共著）。

壽賀 一仁氏／（一社）あいあいネット専務理事、「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議（ESD-J）理事

東京生まれ。子供の頃、多くの時間を両親の故郷・鹿児島で過ごす。大学時代に日本国際ボランティアセンター（JVC）のボランティアに参加し、そのまま職員としてアフリカを中心に農村開発の支援にかかわる。一時休職して滞在したジンバブウェで、援助ではない交流と対話の可能性に目覚め、2005年からあいあいネットでも活動する。現在はあいあいネットに専念し、日本を含む世界各地の地域づくりの現場で、ファシリテーションを通じたまなびあいの促進に取り組んでいる。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科、東京外国語大学、フェリス女学院大学非常勤講師。